



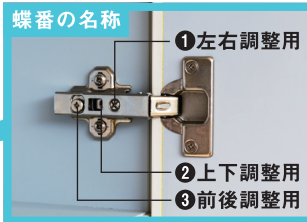
03 キッチン収納扉を元の位置に戻す方法

収納扉は、使い続けるうちに扉の開閉を支える蝶番のビスが自然とゆるんで扉が傾いたり、温度や湿度の変化によって扉がスムーズに開閉できなくなる場合も。そのまま使い続けると、ヒンジを傷める原因にもなりかねません。ガタつきや違和感を覚えたら、早めに元の位置に扉を戻しましょう。
※洗面・玄関の収納扉でも、同じように調整できます。

用意するもの

プラスドライバー、
軍手、脚立

扉は左右や前後のズレがないように取付けられています。微調整が必要なときは蝶番の①②③のネジで行えます。



左右調整

①のネジを右に回すと蝶番側に移動し、左に回すと蝶番の反対側に移動します。



上下調整

上下の扉が片寄っている場合は、②のネジをゆるめて座金の位置を調整します（上下2本の蝶番を調整してください）。



前後調整

前後の開きは③のネジで調整できます。



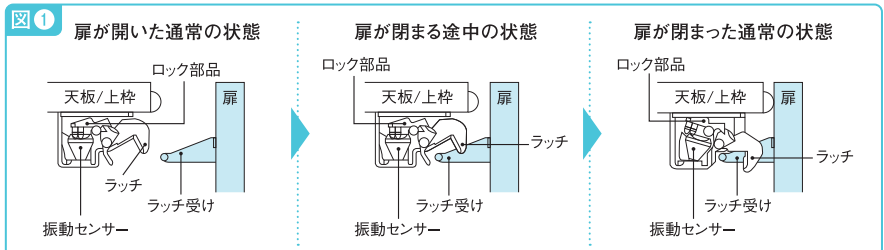
- 調整後は、すべての蝶番の②③のネジが締め付けられていることを確認してください。
- 調整終了後、扉の傾き、ガタつき、蝶番のゆるみがないことを必ず確認してください。使用中に扉が落下して、ケガをする恐れがあります。

キッチンの天袋収納や吊戸棚などは使い続けているうちに、扉の位置が下がり、大きな振動を受けても扉の耐震ラッチがロックされなくなる場合があります。その場合、収納扉の位置を元に戻してください。

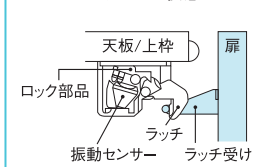


天袋や吊戸棚など高いところにある収納扉を開閉する場合、左の写真のように水平に開けていようでも、自然と取っ手に荷重がかかり、そのまま使い続けると蝶番がゆるみ扉が傾いてくることがあります。扉が傾くことで大きな振動を受けても耐震ラッチが下の図③のようにロックされなくなり、中の収納物が飛び出してしまい危険です。

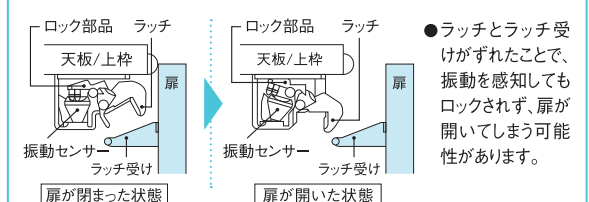
収納扉のラッチとラッチ受けを真横から見た図



図② 振動により耐震ラッチがロックされた状態



図③ 扉が傾くことで扉を閉めてもラッチとラッチ受けがずれてしまった状態



①左右調整用



扉の耐震ラッチが
ロックされない場合、
元に戻す方法

扉が傾き耐震ラッチとラッチ受けがずれているようであれば、蝶番の①左右調整用のネジを締めて調整、傾きを直し耐震ラッチとラッチ受けのずれを戻してください。



スマートフォンやパソコンからオーナーズWebにログインいただくと、今回紹介した「収納扉の調整方法」の動画をご覧ください。